

いざなぎ流研究の 新時代へ

いざなぎ流研究の現在と物部フィールドワークの12年

第1部 フォーラム——物部フィールドワークの12年（11:00～12:30 E101教室）

東京の外れの小さな大学から、若者たちは、高知県の平家伝説に彩られた山村（現・香美市物部町）に通い続けた……。2000年に始まったフィールドワークの歴史を振り返りながら、新しい一歩を構想します。

座談会：映像と写真で辿るフィールドワークの12年

前田耕作／小松英介／在学生／卒業生ほか

パフォーマンス：いざなぎ流舞神楽『えびすの倉入り』

いざなぎ流神楽保存会（半田敏張・半田琴美）／和光大学生

第2部 シンポジウム——いざなぎ流研究の新時代へ（13:30～17:50 E101教室）

基調講演 1：いざなぎ流とはなにか

小松和彦 国際日本文化研究センター所長

基調講演 2：いざなぎ流研究史概観——パネラーたちの研究を中心に

山本ひろ子 所員／和光大学教授

パネルディスカッション

報告 1：祭文と儀礼の視点から——「金神の祭文」をめぐる

斎藤英喜 佛教大学歴史学部教授

報告 2：神楽の視点から——米と巫女と神がかりと

梅野光興 高知県立歴史民俗資料館学芸専門員

報告 3：『いざなぎ流の研究』を書き終えて

小松和彦 国際日本文化研究センター所長

討 論

司会：山本ひろ子

2012年11月24日(土) 10:00~18:00 和光大学E棟101教室・コンベンションホール

土佐・物部に伝わる民間信仰“いざなぎ流”の魅力と歴史から
日本文化の深層とその可能性を探り、
また都会の大学と山村の交流が生み出してきたものはなにかを見つめました。
イベント全体では、
いざなぎ流舞神楽のパフォーマンス、展示、物部物産展などもあり、
晩秋の一日、“土佐”が横溢する多彩なイベントとなりました。
本誌では、第2部のシンポジウムのご報告をいたします。

